（別紙様式２）

第３回　北陸銀行若手研究者助成金　研究実績報告書

氏名	所属・職名	助成金額
井田　克征	国際文化資源学研究センター・客員研究員	350,000 円

研究課題名	マハーラーシュトラ州ワルカリー派の聖人伝におけるイスラムの表象について
研究の概要	〔研究開始当初の背景，研究の目的，研究の方法等について記入〕 本研究は，西部インドのマハーラーシュトラ州に多く見出されるヒンドゥー教のグループであるワルカリー派の聖人伝の中からイスラムに関する言説を抽出，分析することで，当時のイスラムとヒンドゥーの関係性を考察するものである。この時に対象となるのは 13 世紀以降にこの地において活躍した聖者達の伝承をまとめた『バクタリーラームリタ』などのマラーティー語資料である。この資料を扱うことで，近代化以前のマハーラーシュトラ社会において，ムスリムがいかなる位置を占めていたかということが明らかになる。
研究の成果	まずはマヒパティによる『バクタリーラームリタ』の中から「エークナート・チャリトラ」の箇所を選んでテキスト校訂を行い，訳出した。そしてこれと密接に関係する『バクティヴィジャヤ』の内容をまとめた。これらの作業の結果，以下の点が明らかになった。 ワルカリー派が，正統的なヒンドゥー教に対して異を唱える箇所は少なくない。また正統的なヒンドゥー教徒としてのバラモン僧が揶揄的に，もしくは批判される例は多い。しかしながらイスラム教に関しては，そうした記述はほとんど無い。信仰としてのイスラム教は，聖者伝の興味の外にあるように見える。聖者伝では，ムスリム王朝の支配者と，ファキール（行者）に対する言及が多い。前者が「牛殺し」として否定的に記述されるのに対して，後者は「乞食坊主」として蔑視的に扱われながらも，時に，ある種の力が認められる。神の化身としてファキールが現れる例もある。またメッカなどの聖地の重要性も示されている。 以上のことから，マヒパティの時代にはすでに明確に「ヒンドゥー意識」が存在していたこと，そして一方で，イスラム行者に対しては，ヒンドゥーの行者に対するのと同様の畏敬の態度を示していることなどがはっきりした。 なお当初予定していた現地でのインタビュー調査は，助成金額の都合上実地できなかった。今後の課題とする。
研究成果発表状況	〔雑誌論文，学会発表，図書，新聞掲載，研究に関連して作成したＷｅｂページ等について記入〕 口頭発表「マハーヌバーヴとはいかなる人々か？」マハーラーシュトラ研究会，2011.12.11。 論文「インドにおける旅と癒やしについて」『北陸宗教』25 号，印刷中。

経費の執行状況	区　　分	執行額（円）	備　　考
	物品費（図書）	55,303	
	物品費（消耗品）	156,007	デスクトップパソコンなど
	旅費	138,690	